

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 30 日現在

機関番号：34315
 研究種目：基盤研究（A）
 研究期間：2008～2012
 課題番号：20252009
 研究課題名（和文） 多文化横断ナラティブ・フィールドワークによる臨床支援と対話教育法の開発
 研究課題名（英文） Methodology of clinical support and dialogical education based on polyphonic narrative-fieldworks across multiple cultures
 研究代表者
 山田 洋子（YAMADA YOKO）
 立命館大学・衣笠総合研究機構・教授
 研究者番号：20123341

研究成果の概要（和文）：

質的研究とナラティブ（語り・物語）アプローチによって、ウィーン、ロンドン、ハノイ、シカゴ、海外 4 都市の大学において、多文化横断ナラティブ・フィールドワークを行った。心理学、医学、看護学による国際的・学際的コラボレーション・プロジェクトを組織し、多文化横断ナラティブ理論および多声教育法と臨床支援法を開発した。成果をウェブサイト HP で公開するとともに、著書『多文化横断ナラティブ：臨床支援と多声教育』（やまだようこ編、280 頁、編集工房レイヴン）を刊行した。

研究成果の概要（英文）：

The polyphonic narrative fieldworks were conducted at the main universities in Vienna, London, Hanoi, and Chicago, by qualitative methods and narrative approach. We organized the multicultural and cross-disciplinary projects collaborated with psychologists, medical doctors and nurses. We presented the new theory of polyphonic narrative and the methodology of polyphonic education and clinical support. The results were published in the web-site and the book “ Polyphonic Narratives Across Multiple Cultures ” (Yamada, Y. eds.2013)

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	8,000,000	2,400,000	10,400,000
2009年度	6,300,000	1,890,000	8,190,000
2010年度	5,800,000	1,740,000	7,540,000
2011年度	6,000,000	1,800,000	7,800,000
2012年度	6,200,000	1,860,000	8,060,000
総計	32,300,000	9,690,000	41,990,000

研究分野：教育心理学

科研費の分科・細目：心理学、教育心理学

キーワード：ケア，ナラティブ，フィールド，医療，対話，教育方法

1. 研究開始当初の背景

フィールド研究と質的研究は、ナラティブを中核に急速に多様に発展しており、学問としての研究法や教育法の本格的整備は急務

であった。また、ナラティブ・アプローチは、当事者の立場から見た物語を重視しており、ナラティブ・セラピーによる治療法や、ナラティブ・ベイスト・メディスンによる医療コ

コミュニケーションなど、応用範囲が広いこと、複雑な相互関係が入り組むフィールドを生きたプロセスとして捉える有効な方法であることから、「他者との多声的対話を多文化ナラティブとしてくみ上げ、多文化に発信する方法」を試みることを計画した。

2. 研究の目的

心理学、医学、看護学による国際コラボレーション・プロジェクトを組織し、ナラティブ（語り・物語）アプローチによって、海外4都市の大学を中心に、多文化横断・学横断的にナラティブ・フィールドワークを行う。文化・領域の特殊性を大切にしながら、それを超えて横断的に対話できる多文化ナラティブ理論と方法を探求するとともに、質的方法を生かして多文化価値が共存・拮抗する現場のニーズに応える実践的な臨床支援法と、対話的教育法プログラムを開発する。

3. 研究の方法

1) 国際コラボレーション・プロジェクト。

多文化ナラティブ理論と臨床支援法A：オーストリア・ウィーン大学を中心に、「教育臨床心理学×生涯発達心理学×社会心理学」を横断する国際セミナーと、異文化教育現場のフィールドワークを行う。多声的ナラティブの実践から、個別フィールドを横断する「多文化ナラティブ」を探求する。

多文化ナラティブ理論と臨床支援法B：イギリス・ロンドン大学を中心に、「ナラティブ医学×ナラティブ心理学×教育臨床心理学」による保健専門家WSと医療現場のフィールドワークを行う。ロンドン大学では、ナラティブ・ベイスト・メディスンの翻訳者・斎藤を中心に、医師・看護師・心理・ヘルス・アドボケーター（患者の立場に立つて医療専門家とのパイプ役になる専門職）など保健専門職（Health professions）の多文化ナラティブ医療WSを行う。また心理学、看護学、人類学等の研究者と「医療専門家と患者の関係」「教育現場のいじめ」などをテーマに臨床コミュニケーションと支援方法について討論し、多文化ナラティブの方法論を探求する。

対話的教育法のプログラム開発C：ベトナム・ハノイ大学を中心に、「社会心理学×保育心理学×小児看護学」による相互交流国際セミナーの開催と、保育・看護教育現場のフィールドワークを行う。茨城大学とハノイ大学は、伊藤を中心に長期にわたる多様な国際相互交流の実績を積み重ねてきた。日本ベトナム教育セミナーでは、「東アジア映画」「行動観察VTR」など映像資料をナラティブ共同生成の媒体にして討論し、さらに新しい教育の可能性を探り、それらの実践を対話教育方法論として理論化し、多文化で利用可

能にする。

対話教育法のプログラム開発D：

アメリカ・ノースウエスタン大学及びノースイースタン・イリノイ大学を中心に、ナラティブ心理学×生涯発達心理学×文化心理学による国際研究交流会の開催と多文化社会都市のフィールドワークを行う。

2) 学際コラボレーション・プロジェクト。

相互研鑽の学横断フィールド創成、国際プロジェクトの準備、共有、反省の場、若手研究者や大学院生たちの教育の場、として三重の生成的機能を果たすことを目的とした。

3) 国際・学際コラボレーション・プロジェクトの対話的統合：4つの国際コラボレーション・プロジェクトを統合して、心理学（生涯発達心理学、社会心理学、臨床心理学）、医学、看護学を学横断し、多文化ナラティブの理論と方法をまとめた著書『多文化ナラティブの対話教育と臨床支援』を刊行する。また、国際シンポジウムや国際学会発表やオンラインHPによって、変化プロセスを含めて多方面に情報を公開する。

4. 研究成果

1) 国際コラボレーション・プロジェクト。

ナラティブ（語り・物語）や質的研究の理論と方法論を研究してきた学際的な研究者が結集して、4つの国際コラボレーション・プロジェクトを組織した。ウィーン、ロンドン、ハノイ、シカゴの4都市の大学を中心に、多文化横断的にナラティブ・フィールドワークを行った。ナラティブ・アプローチによって、心理学（発達心理学、社会心理学、教育心理学、臨床心理学）、医学、看護学など多様な学問領域の研究者が学横断的・国際的に多声対話を重ねる共同研究の場をつくり、文化・領域の特殊性を大切にしながら、それを超えて横断的に対話できる多文化ナラティブ理論と方法、および質的方法を生かして多文化価値が共存・拮抗する現場のニーズに応える、新たな実践的な臨床支援法と、対話的教育法を提案した。

文化ナラティブと臨床支援法A：ウィーン・プロジェクト 多文化ナラティブとライフサイクルの探求（平成20年度）。オーストリア・ウィーン大学において、「多文化研究の国際ワークショップ：ウィーン大学と京都大学」を開催した。また、ウィーンと近郊において日本人学校、多文化移民地区のフィールドワーク、ビジュアル・ナラティブ歴史図像のフィールドワークを行った。多文化ナラティブとライフサイクルの理論と方法論について国際的に討議した。日本でもビジュアル・ナラティブの国際シンポジウムを開催するなど共同研究を推進した。

多文化ナラティブ理論と臨床支援法B：口

ンドン・プロジェクト 医療と心理支援の多文化ナラティブ方法の探究(平成21年度)。ロンドン大学において、国際ワークショップ「臨床教育者のためのナラティブ・スキル」国際シンポジウム「健康と病いのナラティブ研究」、国際シンポジウム「精神健康のケアにおけるナラティブ・セラピーとトレーニング」を開催した。また、アンナ・フロイドセンター、タビストック・センター等でフィールドワークを行った。ナラティブ・ベイスト・メディスンにおける新しい研究方法と研修方法および臨床支援法を探索した。

対話的教育法のプログラム開発C: ハノイ・プロジェクト - 多文化フィールドワークによる多声教育法(平成22年度)。ハノイ東北アジア研究所において国際シンポジウム「心理学、ケア、文化: ベトナムと日本」を開催した。また、ハノイ旧市街のフィールドワーク、ハノイ近郊の病院、小学校、幼稚園のフィールドワークを行った。ハノイ大学の学生と共に多声教育法を開発し実践した。

対話教育法のプログラム開発D: シカゴ・プロジェクト 人生ナラティブと質的研究の多声教育法(平成23年度)。ノースウエスタン大学で「ライフストーリーに関する国際コロキウム」、ノースイースタン・イリノイ大学で「生涯発達心理学に関する国際シンポジウム」を開催した。また、高齢者施設「平和テラス」と青少年情緒障害施設「オーソジェニック・スクール」をフィールドワークした。ライフストーリー研究法を中心とした多声教育法を探索した。

2) 学際コラボレーション・プロジェクト。「学際コラボレーション・プロジェクト」では、相互研鑽の学横断フィールド創成、国際プロジェクトの準備、共有、反省の場、若手研究者や大学院生たちの教育の場として、三重の生成的機能を果たすことを目的とした。「教育実践交換プロジェクト」では、学横断的、世代横断的に各自の教育実践を多声的に交換するとともに、実践的な多声教育の場をつくることを目的に「教育実践交換プロジェクト」を、広島大学、日本赤十字大学において2回開催した。「協働の学びプロジェクト」では、「多声ナラティブ協働合宿」を滋賀県高浜市で行った。多様な実践的試みから、新しい多声教育法の開発と理論モデル化を行った。その協働生成プロセスや研究成果をオンラインHPで公開した。

3) 国際・学際コラボレーション・プロジェクトの対話的統合。

全体報告書の刊行。全体成果を書籍『多文化横断ナラティブ 臨床支援と多声教育(やまだようこ編、2013年3月28日、総280頁、編集工房レイヴン)』として刊行した。また、書籍全体を電子化して、HPでも公開した。

国際コラボレーション・プロジェクトと学

際コラボレーション・プロジェクトの2つのプロジェクトを併行しておこない、最終年度にこの2つを対話的に統合して、多文化横断ナラティブの理論モデルと、新たな多声教育法の提案を行った。

国際学会における発表。研究成果は、イタリア、韓国、ノールウェイ、京都、ドイツ等で開催された国際学会や国際シンポジウムで発表し、国際的にも大きな反響があった。また、日本でビジュアル・ナラティブに関する国際シンポジウムを開催した。

HPによる発信。HPを作成し、随時、活動プロセスや研究成果を発信した。

(<http://www.ritsume.ac.jp/~yjr12085/kaiken/>)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計220件)

やまだようこ(2013). ビジュアル・ナラティブと時空間 こころと文化(多文化精神医学会), 12, 48-53.(査読有)

やまだようこ(2013). 看護とナラティブ - 「並ぶ関係」で当事者の物語を聴く. 看護診断 18(1), 34-39.(査読無)

やまだようこ(2013). 子どもと母の関係イメージと人生の物語 - 多文化研究から子ども学研究(甲南女子大学), 14, 103-132.(査読無)

やまだようこ(2012). 負の感情をのりこえる語り - 「がんばろう、日本」と「アイ・ラブ・ニューヨーク」. こころの未来, 8, 22-25.(査読無)

伊藤哲司(2012). 「平等」のなかの貧困: ベトナム・フエの水上生活. 発達心理学研究, 23, 375-383(査読有)

川島大輔・竹本克己(2012). 質的研究の方法論と学びの質を高めるMOB 往復書簡を通じた対話/実践. 北海道教育大学大学院高度教職実践専攻(教職大学院)研究紀要, 2, 43-57.(査読無)

やまだようこ(2011). 「発達」と「発達段階」を問う - 生涯発達とナラティブ論の視点から. 発達心理学研究, 22, 418-427.(査読有)

岡本祐子(2011) 陶器職人における専門家アイデンティティの生成と継承. 広島大学心理学研究, 10, 173-187.

戸田有(2011). 実践の多面体モデルと道徳教育・人権教育. 道徳性発達研究, 6, 15-20.(査読有)

Yamada, Y.(2010). Visual image and narratives. New Horizons of Academic Visual-Media Practices. Proceeding of 13th Kyoto University International Symposium. 115-116.(査読無)

- Yamada, Y. (2010). Image maps of life and the spiritual life cycle: Japanese, British, Austrian and French University Students visual narratives. *New Horizons of Academic Visual-Media Practices. Proceeding of 13th Kyoto University International Symposium*. 122-125. (査読無)
- 戸田有一(2010). 児童・青年の発達に関する研究動向といじめ研究の展望. *教育心理学年報*, 49, 55-66. (査読無)
- Nishiyama, N. & Yamada, Y. (2009). Visual Narratives of Grand Parent-Parent-Child Relationships from the Perspective of Young Adult Granddaughters. *International Society for the Study of Behavioural Development Bulletin*, 56(2), 2-6. (査読有)
- やまだようこ (2010). 時間の流れは不可逆的吗? ビジュアル・ナラティブ「人生のイメージ地図」にみる、前進する、循環する、居るイメージ. *質的心理学研究*, 9, 43-65. (査読有)
- やまだようこ (2010). 実践知と質的研究に共通する「ものの見方」と今後の問題. *教育心理学年報*, 49. (査読無)
- やまだようこ・山田千積 (2009). 対話的場所(トポス)モデル-多様な場所と時間をむすぶクロノ・トポスモデル. *質的心理学研究*, 8, 25-42. (査読有)
- 斎藤清二 (2009). インタビューと臨床実践 関係性と語りをめぐって. *質的心理学フォーラム*, 1, 13-22. (査読有)
- 菅原幸恵・北上田源・実川悠太・伊藤哲司・やまだようこ (2009). 過去の出来事を「語り継ぐ」ということ. *質的心理学研究*, 8, 6-24. (査読有)
- 矢守克也 (2009). 質的心理学の現状と課題. *比較日本文化研究*, 12, 18-27. (査読無)
- 伊藤哲司・矢守克也 (2009). インターローカリティをめぐる往復書簡. *質的心理学研究*, 8, 43-63. (査読有)
- 21 やまだようこ (2008). 多声テキスト間の生成的対話とネットワークモデル 「対話的モデル生成法」の理論的基礎. *質的心理学研究*, 7, 21-42. (査読有)
- 22 斎藤清二 (2008). 事例研究という質的研究の意義. *臨床心理学*, 8, 27-34. (査読無)
- 23 戈木クレイグヒル滋子・三戸由恵・畑中めぐみ. (2008). 情報の共有 小児がんの子どもへの医療面談. *質的心理学研究*, 7, 225-239. (査読有)
- 浦田 悠・高橋菜穂子・やまだようこ・戸田有一・遠藤野ゆり・森岡正芳 (2013). 「いじめ」や「虐待」をいかに防ぐか-質的研究からのアプローチ. *日本発達心理学会第24回大会*, 明治学院大学, 2013年3月15日
- Yamada, Y., Ieshima, A., & Urata, Y. (2012). Image drawing method about mother-child relationships: Visual narratives for qualitative research (1). *The 2nd Global Congress for Qualitative Health Research*, Milan, Italy, 29 June, 2012
- 戸田有一 (2012). ヨーロッパ各国の予防教育(シンポジウム「世界の学校予防教育」). *日本教育心理学会第54回総会*, 琉球大学, 2012年11月25日.
- 岡本祐子・やまだようこ・坂本清治・森岡正芳 (2012). 沖縄に学ぶ世代継承性とライフサイクル-沖縄の伝統文化を次世代教育にどう生かすか. *日本教育心理学会第54回総会*, 琉球大学, 2012年11月24日
- 木戸彩恵・サトウタツヤ・今尾真弓・福田茉莉・安田裕子・谷口明子・やまだようこ (2012). 病いの語りとパーソナリティ. *日本パーソナリティ心理学会第21回大会*, 島根県民会館, 2012年10月7日
- 木戸彩恵・浦田 悠・西山直子・安田裕子・家島明彦・やまだようこ・伊藤哲司・吉永崇史 (2012). 多文化横断ナラティブを生成継承する 日本の質的研究の国際化に向けて. *日本質的心理学第9回大会*, 東京都市大学, 2012年9月2日
- やまだようこ. (2012). 看護とナラティブ-「並ぶ関係」で当事者の物語を聴く. *第18回日本看護診断学会学術大会*, 京都国際会議場, 2012年7月14日(招待講演)
- やまだようこ・田垣正晋・荘島幸子・麻生 武・斎藤清二・徳田治子・矢守克也 (2012). 質的研究の来し方と未来-ナラティブをめぐって. *多声対話シンポジウム*, 京都大学, 2012年2月18日
- 岡本祐子・やまだようこ. (2011). 師弟関係を通じた Profession の生成と継承 Generativity(世代継承性)のマクロとミクロな視点. *日本質的心理学第8回大会*, 安田女子大学, 2011年11月26日
- やまだようこ (2011). 京の祭のワザとところを探る. *ワザところ-葵祭から読み解く*, 京都大学こころの未来研究センター, 2011年11月23日
- やまだようこ・浦田悠・家島明彦・西山直子・竹内一真・小林亮・杉浦和美.

- (2011). ナラティブ・アイデンティティと文化 アメリカの典型例 (Redemptive Self) と日本の典型例. 日本心理学会第75回大会, 日本大学, 2011年9月16日
- やまだようこ (2011). 「並ぶ関係」の医療ナラティブをめざして - 質的研究をとおして考える. 第35回口蓋裂学会総会・学術集会, 新潟コンベンションセンター, 2011年5月25日 (招待講演)
- やまだようこ (2010). Models of life-span developmental psychology. 国際シンポジウム: 心理学, ケア, 文化 ベトナムと日本, ベトナム社会科学院, ハノイ, ベトナム, 2010年12月27日.
- 杉浦淳吉・安田裕子・やまだようこ・吉永崇史・松嶋秀明 (2010). 生き生きした多声ナラティブを生み出す多重の場所 (トパス). 日本質的心理学会第7回大会, 茨城大学, 2010年11月28日
- 伊藤哲司 (2010). ハノイの路地のエスノグラフィー. 国際シンポジウム 心理学, ケア, 文化: 日本とベトナム. ベトナム社会科学院. ハノイ・ベトナム. 2010年12月27日.
- やまだようこ・斉藤こずゑ・西山直子・戸田有一・家島明彦 (2010). ヴィジュアル・ナラティブ研究の方法論 イメージ画をもとに. 日本心理学会第74回大会, 大阪大学, 2010年9月20日
- 戸田有一・酒井恵子・やまだようこ (2009). 心理学研究における順序構造分析の提案と課題. 日本教育心理学会第51回総会, 静岡大学, 2009年9月21日
- 荘巖舜哉・やまだようこ・南博文・川島大輔 (2009). 時代が隠すもの・現すもの (2) ライフサイクルから見る生と死. 第20回日本発達心理学会大会, 日本女子大学, 2009年3月24日
- Yamada, Y. (2009). Visual images of life cycle. Vietnam Institute for Northeast Asian Studies, Hanoi, Vietnam, 29th December, 2009.
- Yamada, Y. (2009). Visual narrative of life cycle and death: Commonality of image drawings across different cultures. Dalat University, Dalat, Vietnam, 25th December, 2009.
- 21 やまだようこ・サトウタツヤ・山崎浩司・行岡哲男・斎藤清二・下山晴彦 (2008). ライフとケアのデザイン 新しい医療モデルと質的研究の可能性. 日本質的心理学会第5回大会, 筑波大学, 2008年11月29日
- 22 矢守克也・伊藤哲司・渥美公秀・南博文 (2008). インターローカリティについて考える 複数の現場を架橋する質的研究. 日本質的心理学会第5回大会, 筑波大学, 2008年11月29日.
- 23 戸田有一・Strohmeier, D.・Spiel, C. (2008). いじめのプロセス・モデル - 継続性と集団化の随伴性. 日本道徳性心理学研究会第19回研究会, 東京未来大学, 2008年10月10日.
- 24 Yamada, Y., Grabner, A., & Strohmeier, D. (2008). Images of turning points: Cultural-historical representations in the contemporary drawings termed "image map of my life" and traditional folk pictures. The 29th International Congress of Psychology, Berlin, Germany, 24 July, 2008.
- 25 Yamada, Y., Grabner, A., & Strohmeier, D. (2008). Cultural-historical representations of life courses: Contemporary drawing of the "image maps of life" and traditional folk images. The 20th International Society for the Study of Behavioral Development, Würzburg, Germany, 14 July, 2008.

〔図書〕(計137件)

- やまだようこ・麻生武・サトウタツヤ・秋田喜代美・能智正博・矢守克也 (印刷中). 質的心理学ハンドブック. 新曜社.
- やまだようこ (編) (2013). 多文化横断ナラティブ 臨床支援と多声教育. 京都: 編集工房レイヴン (総280頁)
- やまだようこ (2012). 世代をむすぶ - 生成と継承. 新曜社. (総344頁)
- やまだようこ (2012). 幸福感を紡ぐ人間関係と教育 (pp.26-38). ナカニシヤ出版. (総247頁)
- 杉浦淳吉 (2012). 第2章 説得的コミュニケーションの理論 吉川肇子(編著), リスク・コミュニケーション・トレーニング (pp.25-31) ナカニシヤ出版
- 川島大輔. (2013). 質的研究 1 (KJ法) (田島信元・岩立志津夫・長崎 勤(編), 新・発達心理学ハンドブック). 福村出版. (印刷中)
- 家島明彦 (2011). 自己の心理学を学ぶ人のために (pp.63-72). 世界思想社.
- Toda, Y. (2011). Bullying (Ijime) and its prevention in Japan: A relationships focus. In R.H. Shute, P.T. Slee, R.Murray-Harvey, & K.L. Dix (Eds.), *Mental Health and Wellbeing: Educational Perspectives* (pp.179-189). Adelaide, Australia: Shannon Research Press.
- やまだようこ (2010). ことばの前のことば うたうコミュニケーション (やまだようこ著作集1). 新曜社. (総486頁)

やまだようこ(編)(2010). やまだようこ・戸田有一・伊藤哲司・加藤義信. (2010). この世とあの世のイメージ 描画のフォーカ心理学. 新曜社. (総352頁)
伊藤哲司(2010). 第三版・常識を疑ってみる心理学 - 自分なりのモノサシを持つ. 北樹出版. (総165頁)
斎藤清二・岸本寛史・宮田靖志(監訳)(2009). ナラティブ・ベイスト・メディシンの臨床研究, 金剛出版. (総312頁)
吉川肇子・矢守克也・杉浦淳吉(2009). クロスロード・ネクスト - 続・ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション. ナカニシヤ出版. (総233頁)
伊藤哲司・山崎一希.(2009). 往復書簡・学校を語りなおす - 「学び、遊び、逸れていく」ために. 新曜社. (総243頁)
矢守克也(2009). 防災人間科学. 東京大学出版会. (総284頁)
Sugiman, T., Gergen, K.J., Wagner, W., & Yamada, Y. (Eds.) (2008.) *Meaning in action: Constructions, narratives, and representations*. Tokyo: Springer.
Yamada, Y. (2008.) Opposite and coexistent dialogues: Repeated voices and the side-by-side position of self and other. In Sugiman, T., Gergen, K.J., Wagner, W., & Yamada, Y. (Eds.) (2008.) *Meaning in action: Constructions, narratives, and representations*. Tokyo: Springer. 223-239.
Sugiman, T., Gergen, K.J., Wagner, W., & Yamada, Y. (2008.) The social turn in the science of human action. Sugiman, T., Gergen, K.J., Wagner, W., & Yamada, Y. (Eds.) (2008.) *Meaning in action: Constructions, narratives, and representations*. Tokyo: Springer. 1-20.

[その他]

ホームページ等

<http://www.ritsumeit.ac.jp/~yyr12085/kaken/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山田洋子 (YAMADA YOKO)
立命館大学・衣笠総合研究機構・教授
研究者番号: 20123341

(2) 研究分担者

岡本祐子 (OKAMOTO YUKO)
広島大学・教育学研究科・教授
研究者番号: 90213991
斎藤清二 (SAITO SEIJI)
富山大学・保健管理センター・教授

研究者番号: 70126522
筒井真優美 (TSUTSUI MAYUMI)
日本赤十字看護大学・看護学部・教授
研究者番号: 50236915
戸田有一 (TODA YUICHI)
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号: 70243376
伊藤哲司 (ITO TETSUJI)
茨城大学・人文学部・教授
研究者番号: 70250975
戈木クレイグヒル滋子
(S Saiki-Craighill Shigeko)
慶應義塾大学・看護医療学部・教授
研究者番号: 10161815
杉浦淳吉 (SUGIURA JUNKICHI)
愛知教育大学・教育学部・准教授
研究者番号: 70311719
河原紀子 (KAWAHARA NORIKO)
共立女子大学・家政学部・准教授
研究者番号: 90367087
藤野友紀 (FUJINO YUKI)
札幌学院大学・人文学部・准教授
研究者番号: 60322781
松嶋秀明 (MATSUSHIMA HIDEAKI)
滋賀県立大学・人間文化学部・准教授
研究者番号: 00363961
川島大輔 (KAWASHIMA DAISUKE)
北海道教育大学大学院・教育学研究科・准教授
研究者番号: 50455416
家島明彦 (IESHIMA AKIHIKO)
島根大学・キャリアセンター・講師
研究者番号: 00548357

(3) 連携研究者

北啓一朗 (KITA KEIICHIRO)
富山大学附属病院総合診療部・准教授
研究者番号: 80324036
江本リナ (EMOTO RINA)
日本赤十字大学看護学部・准教授
研究者番号: 80279728
山田千積 (YAMADA CHIZUMI)
東海大学医学部・講師
研究者番号: 40464226
安田裕子 (YASUDA YUKO)
立命館大学・衣笠総合研究機構・ポストドク
トラルフェロー
研究者番号: 20437180
三戸由恵 (MITO YOSHIE)
慶應義塾大学大学院・健康マネジメント研
究科・後期博士課程
研究者番号: 60404943